93. 福田ドクトリン

11月1日、「福田ドクトリン記念碑」を見学すべく文京区本駒込の ABK 学館日本語学校（アジア学生文化協会）を訪ねた。　（ドクトリンとは、政治・外交・軍事などにおける基本原則）

「福田ドクトリン」とは、1977(昭和 52)年8月、ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国歴訪中の当時の福田赳夫首相がフィリピンのマニラで演説した東南アジア外交三原則のことで、三原則は、①平和に徹し軍事大国にならない、②「心と心」のふれ合う友好関係の樹立、③対等なパートナーとして東南アジアの地域的共存と安定に寄与する、ことである（要約)。

平和・非軍事・心と心のふれ合い､といった言葉等から当時かなりのニュースになった筈だが、その頃31歳だった私は情けないことに全く記憶がない。羽村に引っ越したばかりで余裕がなかったのかも知れない。知ったのは１年前の新聞記事。大事な記事と思い、切抜きしておいたのを最近見直して、記念碑のあることも知ったので訪ねてみようと思った、という訳だ。

このドクトリンを調べると「1974 年の田中首相の ASEAN 歴訪の際、ジャカルタでの反日暴動など激しい反日機運が噴出したのを契機に、従来の利潤追求型の東南アジア関係を修正し、安定的発展と相互依存を重視する姿勢を打出した」と背景説明がある。経済オンリーのエコノミック･アニマルと日本批判が盛んだった頃のことだろうが、アメリカがベトナム戦争から撤退し東南アジアでの存在感が減じる中、ASEAN 各国は日本の再軍備を懸念していた時期でもあった。そのためか「戦後の懸案処理型の外交を離れて、はじめて明確な理念をかかげての外交」との評価がある。何より「平和に徹し非軍事国化」が各国から受け入れられたのだろう。

先述の記事（東京新聞 2023 年11月12日、社説「福田ドクトリンの理念　週のはじめに考える」）の中に「かすんできた平和路線」というのがある。以下要約である。福田ドクトリンの理念に沿い、武器輸出は実質的に禁じられ、歴代政権は集団的自衛権は「保持しているが行使できない」との立場を守ってきた。防衛関連費の GDP 比も１％未満で推移してきた。が、これらは安倍政権、岸田政権で覆され、あるいは覆されようとしている、というもの。そして今、ASEAN 各国に近い南シナ海や台湾海峡、インド洋で、米中の覇権争いが顕在化し、ASEAN 内も、米国寄りと中国寄りに割れている。日本の役割は、両陣営の緊張緩和に貢献すること、特に日中関係の再生で岸田首相と習近平主席が頻繁に話し合えるような状況を作り出すべき、と訴えている（既に岸田首相は退陣しているが)。

米中角逐の最中だが、私は中国を含め、もっと隣国などと対話を増やし仲良くすべきだと思っていたので、記事の主張は全くその通りだと思った。

日本は、福田ドクトリンの理念を再認識すべきだと思う。

碑を見学しようとしたら、丁度、ABK 学館日本語学校の校長先生が居合わせ、色々とお話を聞かせて頂きました。また、通りかかったウクライナからの留学女学生とお話をする機会もありました。記して共に感謝申し上げます。

「福田ドクトリン記念碑」の文章は次の通りです。上段には日章旗と ASEAN の旗が彫られています。

福田ドクトリン

心と心

1977 年8月18日、第67代福田赳夫首相は、10 日間にわたるアセアン諸国歴訪の最後に、フィリピンのマニラで歴史的な演説を行った。それは「福田ドクトリン」として知られ、平和と相互信頼を日本の外交の基盤とする方向性を明確に指示したものである。このドクトリンに掲げられた 3 原則は、その後の日本の東南アジア政策の柱となっている。

一 わが国は、平和に徹し軍事大国にならないことを決意しており、そのような立場から、東南アジアひいては世界の平和と繁栄に貢献する。

二 わが国は、東南アジアの国々との間に、政治、経済のみならず社会、文化等、広範な分野において、真の友人として心と心のふれ合う相互信頼関係を築き上げる。

三 わが国は、対等な協力者の立場に立って、ASEAN 及びその加盟国の連帯と強靭性強化の自主的努力に対し、志を同じくする他の域外諸国とともに積極的に協力し、また、インドシナ諸国との間には相互理解に基づく関係の醸成をはかり、もって東南アジア全域にわたる平和と繁栄の構築に寄与する。

（福田赳夫肖像画）

第 67 代内閣総理大臣　福田赳夫

1905 － 1995

私たちは日本と東南アジアおよび世界の平和を祈念し、不断に相互の友好と信頼の絆を深めることを誓いここに記念碑を建立する

公益財団法人 アジア学生文化協会

学校法人 ABK 学館日本学校

令和三年(2021 年)11 月 24 日

（2024 年 11 月 4 日）